

# 広島県

## 自然災害に関する防災教育の手引

### [別冊]

—平成30年7月豪雨災害を踏まえた実践事例・資料集—



平成31年3月

広島県教育委員会

表紙の写真について	
<p>(左上)</p> <p>平成 30 年 7 月豪雨災害での被災状況 (三原市)</p> <p>[県砂防課]</p>	<p>(右上)</p> <p>平成 30 年豪雨災害後にボランティア活動に参加する高校生 (三原市)</p> <p>[三原東高等学校]</p>
<p>(左下)</p> <p>昭和 42 年 7 月 9 日豪雨災害での被災状況 (宮原通 1 2 丁目)</p> <p>[県砂防課]</p>	<p>(右下)</p> <p>熊野町川角立体地図</p> <p>【平成 30 年 7 月 11 撮影 (空中写真)】</p> <p>[国土地理院ウェブサイト]</p>

## はじめに

西日本各地に大きな被害をもたらせた平成30年豪雨災害からまもなく一年を迎えます。平成30年7月3日から8日にかけて、わずか6日間で7月の過去の最大月間降水量を超える雨量を記録するなど、県内各地で観測史上初となる記録的な豪雨に襲われ、多くの人的被害や、家屋・インフラといった物的損害など、最大級の被害がもたらされました。

想定を超える豪雨による土砂災害や洪水による道路や鉄道の寸断、広範囲にわたる水道の断水など、児童生徒等は家庭や地域、学校において、これまでにない経験を重ねました。また、学校においては、教職員による児童生徒等の安否確認や心のケア、避難所における運営協力、学校再開へ向けての学校施設の安全確保など、日常の学校業務とは異なる対応が必要となりました。しかしながら、国や県外からの早急な御支援などによって、早期に学校を再開することができました。

このような状況の中、主体的にボランティア活動に取り組む児童生徒の姿が、地域の方に元気を与えたところです。このことは、これまで地域のために働くことのできる児童生徒の育成に取り組んだ防災教育の賜物であると考えております。

この度、こうした豪雨災害の経験から学び、自然災害の被害を最小限にとどめるとともに、児童生徒等が主体的に判断し、自分や家族の命、地域を守るために行動できる力を育成することをめざし、平成25年に作成した「広島県自然災害に関する防災教育の手引」の別冊として本手引を作成しました。

各学校においては、本手引を活用して防災教育をさらに充実させるとともに、学校の実態に応じた防災教育を教科横断的な視点をもって学校安全計画に位置付け、内容のつながりを整理しながら計画的に実施していただくことを期待しています。

終わりになりましたが、本手引作成に当たり、御協力いただきました国土地理院中国地方測量部、広島地方气象台、広島大学大学院 准教授 熊原 康博先生、広島県土木建築局砂防課をはじめ、多くの関係者に感謝申し上げます。

平成31年3月

広島県教育委員会事務局  
教育部 豊かな心育成課

# 目次

## ～ 自分の命・家族の命・地域を守るために 主体的に行動できる児童生徒の育成をめざして ～

【平成 30 年 7 月豪雨災害について】	1
-----------------------	---

【豪雨災害を経験して】	2
-------------	---

- その時, 子供たちは
- 被災された方の声
- 復旧復興に向けて

### 【実践事例(指導案集)】

#### 1 自分の命を守るために行動できる

(1) 小学校 国語科 (NIE) 指導案	3
(2) 中学校 理科 指導案	6
(3) 特別支援学校 中学部 特別活動 指導案	10

#### 2 自分・家族の命を守るために行動できる

(1) 中学校保健体育科 指導案	11
------------------	----

#### 3 自分の命・地域を守るために行動できる

(1) 小学校 社会科 指導案 (わたしの避難手帳)	13
----------------------------	----

#### 4 地域を守るために行動できる

(1) 小学校 理科 指導案	18
(2) 中学校 道徳の時間 指導案	19
(3) 高等学校 地理歴史科地理B 指導案 (地理院地図の活用)	23

#### 5 教科横断的な実践及び総合的な学習の時間

(1) 小学校 総合的な学習の時間 (避難所生活) 指導案	25
(2) 中学校 保健体育科・道徳, 特別活動 指導案	28

### 【参考資料集】

6 避難訓練(地震・津波)実施計画事例	37
7 児童生徒作文	43

### 【関係資料】

8 坂町教育委員会 防災への取組実践発表資料	A
9 広島大学大学院教育学研究科 熊原 康博准教授 講義資料	B
10 広島地方气象台 (学校安全指導者講習会資料)	C
11 国土地理院中国地方測量部 (学校安全指導者講習会資料)	D
12 広島県土木建築局砂防課 (学校安全指導者講習会資料) 土砂災害関係 参考HP一覧	E

# 平成 30 年 7 月豪雨災害について

平成 30 年 6 月 29 日に発生した台風 7 号の影響による雨雲，また 7 月 5 日から 8 日にかけて梅雨前線が西日本付近に停滞しており，そこに大量の湿った空気が流れ込んだため，西日本から東海にかけて大雨が連日続きました。

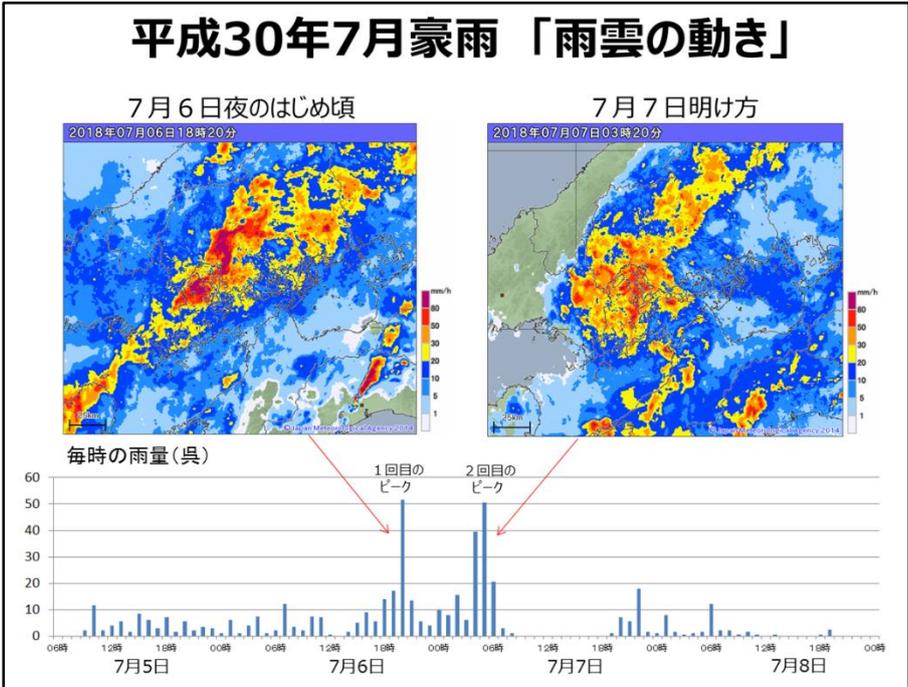


[坂町小屋浦 航空写真] (県砂防課提供) H30/7/7

7 月 6 日 17 時 10 分に九州北部の 3 県に大雨特別警報が発表され，続いて 19 時 40 分に広島，岡山，鳥取，さらには，京都，兵庫の 8 府県に大雨特別警報が発表されました。翌日

以降，岐阜，高知，愛媛の 3 県にも大雨特別警報が発表され，最終的に 11 府県で大雨特別警報が発表されました。

この豪雨により，県内はもとより西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や浸水害，土砂災害が発生し，甚大な災害となりました。また，上水道等のライフラインがストップしたほか，交通障害が広域的に発生し，日常生活が一変することになりました。



[平成 30 年度学校安全指導者講習会説明資料より] (広島地方気象台)

## 豪雨災害を経験して

### ■ 子供たちの声

- あっという間に水が玄関まで来た。道路は泥水で夜の避難はできなかった。早目の避難が大切だと知った。
- これまでとは違う雨の降り方だったので、近所のおじいさんたちに声をかけていっしょに避難した。日頃からの訓練が役に立った。
- 救助されるまで、水道や電気が止まって困った。非常食や水を蓄えておこうと思う。
- 茶色の水に流された。「たすけて！」と大きな声で叫んだ。おじさんたちに助けてもらい、安心した。とても暗くてこわかった。
- 雨は止まず不安だった。避難情報が出て、身の危険を感じ高い場所に避難した。恐怖を覚えた。
- 近所の土砂を片づけるため部活動の仲間とボランティアに参加した。少しでも役に立ったかなと思った。
- 勉強すること、部活動をすること、電車に乗って通学することなど、当たり前前なのが当たり前でなくなった。自分は大丈夫だと決めてはいけなと感じた。

### ■ 被災された方の声

- まさか自分が被害に遭うとは思わなかった。
- 地域のつながりを大切にしないと強く感じた。
- 避難所の運営など訓練しておく必要があると感じた。
- 土砂災害に備えて、避難情報に頼るだけでなく、早めに避難できるようにしたい。
- 家族に避難を促されなかったら、避難しなかったと思う。一緒に避難してくれる人がいると心強い。

### ■ 教職員の声（学校の復旧復興に向けて）

- 児童の安否確認に時間がかかった。
- 通学路の安全確認を行い、安全な道路へ通学路を変更した。
- 避難所となり、学校再開までに教育委員会や地域の方と連携し、避難所運営に協力した。
- 学校再開へ向け取り組む内容を列挙し、全教職員で確認して取り組んだ。
- 水没した学校施設の消毒をはじめ、衛生面の復旧に時間がかかった。
- 生徒の心のケアに十分配慮し、きめ細やかに健康観察を行い、専門家へつなぐ体制を整えた。

# 1 自分の命を守るために行動できる

小学校 【1年生 国語科 (NIE)】

自分の命を守る

しんぶんきじを よんで、じぶんにできることを かんがえる。

◇本時の目標 7月の西日本豪雨災害の新聞記事を読んで、地域の状況を知り、自分たちにできることを考えることができる。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準
<p>1 新聞記事の写真を見て、気付いたことを発表する。</p> <p>○どんな様子ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路が見えなくて、泥だらけになっています。</li> <li>・線路も泥だらけです。</li> <li>・山が崩れて、道路に土が入っています。</li> </ul> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>◇災害の様子が分かる写真を提示し、状況を捉えられるようにする。</p> <p>◇写真を見て、気付いたことを自由に発言させる。</p> <p>◇事前に自宅が被災していないか等、児童の状況について把握しておき、学習内容が心的ストレスにつながらないように、十分配慮する。</p>	
<p>7がつの おおあめの しんぶん きじを よんで、 じぶんに できることはないか かんがえよう。</p>		
<p>3 新聞記事を読む。</p> <p>○新聞記事を読んで、どんなことが分かりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・220人以上の人が亡くなったことが分かります。</li> <li>・1日でたくさんの雨が降ったことが分かります。</li> <li>・避難所に避難している人がたくさんいることが分かります。</li> <li>・ボランティアをしている人がたくさんいることが分かります。</li> </ul> <p>4 新聞記事を読んで、思ったことや自分にできそうなことはないか考える。</p> <p>○災害が身近なところで起きたけれど、自分たちにできそうなことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この写真みたいに、家の近くの川の水があふれて、道路の泥をきれいにするのが大変でした。</li> </ul>	<p>◇新聞記事の内容は難しいので、教師が読みながら内容を簡単に説明する。</p> <p>◇内容が理解できない児童には、書いてある部分を指しながら説明したり、写真で補足したりしながら個別指導をする。</p> <p>◇自分の体験と結び付けて考えさせるようにする。</p> <p>◇ボランティアに参加している人たちやプロスポーツ選手たちが行動を起こしている写真等から、自分にもできそうなことを考えさせる。ボランティアに参加する等の行動面ばかりではなく、黙祷をささげる等、相手のことを思う心情からも考えられるよう</p>	

<p>他の地域でも、みんなで協力してきれいにしているんだなと思いました。私もボランティアに参加したいと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私の家は大丈夫だったけど、テレビで見たときびっくりしました。家に帰ったら、避難場所を確認しようと思いました。</li> </ul> <p>5 本時の学習を振り返る。 ○今日の学習で、思ったことや考えたことを、友達に伝えましょう。</p>	<p>な写真を提示する。 ◇避難グッズを準備する、避難場所を確認する等、防災面からの考えも発言してよいこととする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事をもとに、自分の体験と結び付けて、自分にできることはないか考えている。 [○読むこと オ] (行動観察・ワークシート)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおあめで、たくさんのひとがなくなったことがわかりました。わたしのいえは だいじょうぶだったけど、いえのちかくのひなんばしょを かくにんしようと おもいました。</li> <li>・わたしの いえのちかくも、ボランティアのひとが たくさんいました。わたしも できることをみつけて ボランティアに さんかしようと おもいました。</li> </ul>		

資料 「新聞記事の写真【ちゅーピー掲示板ニュース7月号, ちゅーピー子ども新聞8月号】」

【参考資料】



「平成 30 年 7 月豪雨による被災状況（水尻川）安芸郡坂町 2018/07/08（県砂防課提供）」



「平成 30 年 7 月豪雨災害ボランティア 2018（広島皆実高等学校提供）」

気象災害への備えについて考える

◇本時の目標 気象災害への備えについて考え、適切な行動がとれるようになる。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準
<p>1 平成30年7月西日本豪雨災害について、知っていることを発表し合う。</p>	<p>・インターネットに接続できる環境を整えておき、生徒の発言に対応した画像を提示できるようにしておく。</p>	
<p>平成30年西日本豪雨災害がなぜ起きたか考え、災害に備えるとともに、適切な行動がとれるようになろう。</p>		
<p>2 平成30年7月6日の天気図を見て、大雨が降った原因を考える。 ○既習事項を活用する。 ○ペアで話し合いをしながら考える。 ○ペアで話し合った後、グループで話し合う。</p> <p>3 考えたことをグループごとに発表し合う。 ○予想される生徒の発言 ・停滞前線が見られる。 ・南からあたたかく湿った風がふいている。</p> <p>4 豪雨災害時広島市安佐北区白木町の三篠川の近くにいた授業者が、川の氾濫からどのようにして逃れたかを考える。 ○平成30年7月6日（金）17時ごろの授業者の状況 「安佐北区白木町の三篠川の側の県道を自動車で行く。川が氾濫しそうであることが確認できたが、</p>	<p>・天気図を生徒一人一人に配付する。雨雲レーダーのG I Fアニメーションを大型テレビに提示する。 ◇事前に災害に遭ったり、関係したりした生徒がいないか、確認しておく。 ◇教科書やノートを活用するよう支援をする。</p> <p>・大型テレビに映した天気図等を使って発表させる。</p> <p>・平成30年7月6日（金）17時ごろ、授業者が渋滞で動けなくなった自動車の中から撮影した氾濫しそうな関川（三篠川の支流）の動画を見せる。 ・氾濫した後の写真を提示する。</p>	<p>・既習事項を用いて、大雨の原因を考えようとしているか。 〔思考・表現〕 （ワークシート）</p>

<p>渋滞して動きが取れない。川はその後氾濫するが、授業者は被害に遭うことなく帰宅できた。」</p> <p>○予想される生徒の発言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車から降りて避難した。</li> <li>・川が氾濫する情報が入った。</li> <li>・道を変更した。</li> </ul> <p>5 実際に授業者が行ったこと、体験したことを聞く。</p> <p>6 平成30年7月5日、6日の1時間あたりの降水量のグラフから、どの時点でどのような行動をすべきだったか考える。</p> <p>○予想される生徒の発言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一番雨が強くなる前の7月6日16時の段階で川に近づかない。</li> <li>・そもそも外出しない。</li> <li>・これだけでは判断できない。</li> </ul> <p>7 他のどのような情報を参考に調べれば、適切な行動することができるか考える。</p> <p>8 本時の学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気象庁が発表している警報や特別警報、注意報など、さまざまな情報を利用して、災害の発生に備えておくことが重要であることを確認する。</li> </ul>	<p>◇災害時のことを想定し、あえて自分一人で考えるよう指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川は氾濫すると判断し、渋滞していない川の上流方向に自動車を進めたことを紹介する。</li> </ul> <p>◇その時点の雨の様子だけなど1つの情報だけでは、判断することが難しいと感じ取らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月6日15時55分の段階で、三篠川の氾濫警戒情報が出され、氾濫危険水位を超えていたことなどをその日に出された情報を紹介し、情報を活用することの大切さに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早めに判断し、行動に移すことの大切さを理解できたか。</li> </ul> <p>[知識・理解]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気象データをもとに、適切な判断ができたか。</li> </ul> <p>[思考・表現] (ワークシート)</p>
		<div style="background-color: #f4a460; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">つながり・発展</p></div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">学んだ事を地域と合同で実施する地域合同防災訓練で発表するとともに、各家庭で大雨に備えてできることは何か考える。</p>

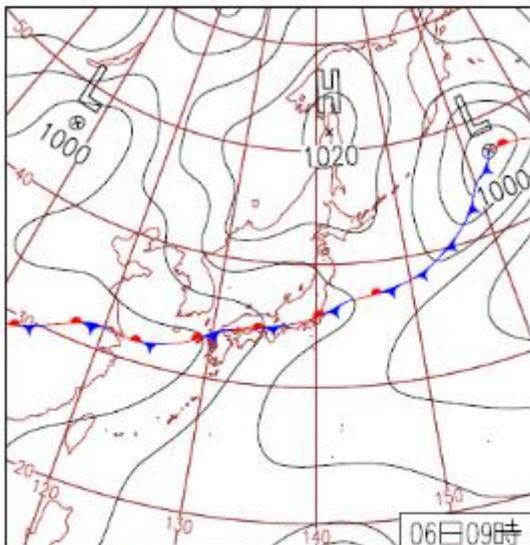
- 資料 ①平成30年7月6日の天気図（気象庁ホームページより）
- ②平成30年7月5日～7日の降水量のグラフ（気象庁ホームページより）
- ③平成30年7月5日～6日の雨雲のようすのG I F動画（気象庁ホームページより）
- ④安佐北区白木町三田三篠川の氾濫後のようすの写真
- ⑤平成30年7月6日17時ごろの三篠川支流関川のようすの動画（授業者本人撮影）
- ⑥ワークシート

# 理科 プリント 「気象災害への備えについて考えよう」

中学校 2年 ( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

1 平成30年7月におきた西日本豪雨災害について知っていることを書きだしてみよう。

2 平成30年7月6日の天気図を見て大雨が降った原因を考えよう。



## 6日(金)西日本に大雨特別警報

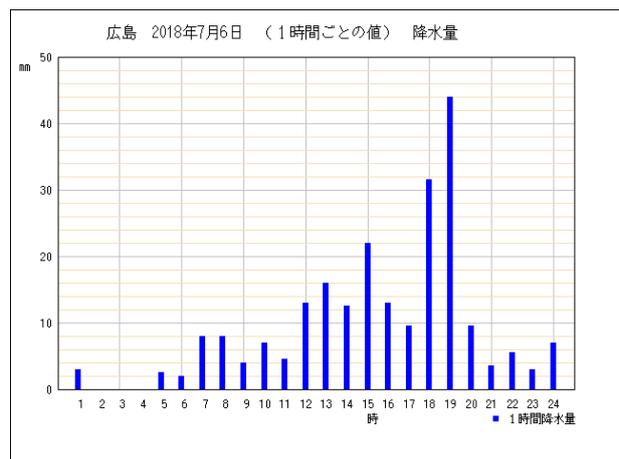
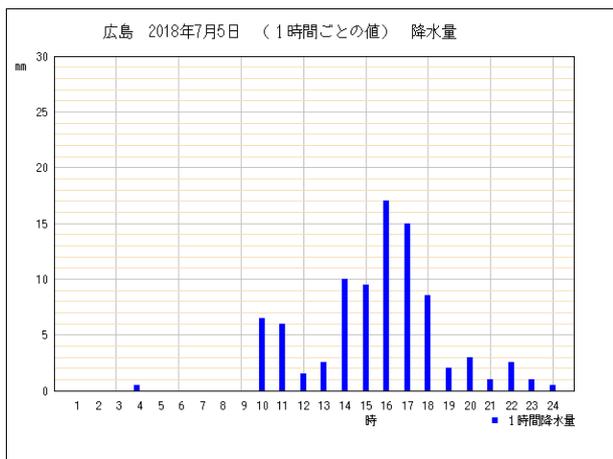
長崎・佐賀・福岡・広島・岡山・鳥取・兵庫・京都の8府県に発表。本州付近に停滞する前線の活動が活発。日降水量、高知県本山510.5mmは観測史上1位の値、佐賀県北山でも422.5mm。

3 先生は平成30年7月6日17時ごろ、氾濫しそうな川の側で、自動車を運転していて渋滞にあい、動けなくなりました。そのまま自動車の中にいたら、川の氾濫に巻き込まれていましたが、自分自身も、自動車も無事帰宅することができました。先生がそのときとった行動は何だったか考えてみてください。



もし自動車の中に残っていたら左の写真のような状況にあっていました。

4 下のグラフは平成30年7月5日と6日の広島市の降水量のグラフである。このような状況の時の、どの時点でどのような行動をとるべきだったのだろうか、考えてみよう。



特別支援学校 中学部 【特別活動】

自分の命を守る

大雨・浸水時に身を守るための行動を知る。

学部・学年・類型	中学部 1年・肢体不自由部門Ⅱ類型	場所	中学部学習室
教科・領域名等	特別活動		
単元・題材名	「防災教育（浸水・大雨）」		
個々の目標	防災や災害時に身を守るための行動を知り，対処する意識を持つ。		
学習の流れ	指導上の支援及び留意点 ☆評価	準備物	
1 あいさつ	◇姿勢を確認し，これから授業を開始することを意識させる。	iPad 新聞記事  ワークシート （気象防災ワークシート～気象庁）	
2 本時の学習内容確認	◇授業の流れを視覚的に提示，説明し，授業内容に関心を持たせる。		
3 目標	◇本時は災害時に自分の身を守る行動を知り，対処する意識を持つことを目標することを確認する。		
4 自然災害について知る	◇これまでに起こった災害について，映像や写真を用いて，説明する。身近な場面で起こることや災害の恐ろしさを意識させる。		
5 対処の方法を知る	◇災害時の対処方法についての○×クイズに答えることで大雨，雷，竜巻から身を守る方法を知る。 ◇自分の生活と結びつけて，自分ができていることを考え，ワークシートに記入させる。		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時における車いすの移動について注意するポイントを知る。</li> <li>・マスクやヘルメットを身に付けたり，車いすの移動が難しい時は大人に助けを求め，必要な支援を伝えることを知る。</li> <li>・マスクをつけるときは，生徒の呼吸状態に注意する。</li> </ul>			
6 振り返り	☆自分の生活と結びつけて，自分ができていることを考えている。 ◇本時の目標を達成できたか確認する。		
7 あいさつ	◇姿勢を正し，授業の終了を意識させる。		
気づき・課題	<p>これまでの生活経験の中で生徒自身が危険を認識，経験することがなかったようだ。本時の学習としてだけで終了しないように，日々の生活の中で意識できる環境や情報を提供していく必要がある。</p> <p>次時へ向けた改善点 今後の地震，火災についての防災訓練に向けて，生徒の生活環境に即して，その中に潜んでいる危険な状況を挙げて，対処方法に結び付ける学習内容を設定していく。</p>		

## 2 自分・家族の命を守るために行動できる

中学校 【2年生 保健体育】

自分・家族の命を守る

自然災害に備えておくことで、防げる傷害があることについて考える。

◇本時の目標 豪雨の時の備えや自分の行動について考え、説明できる。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準
<p>1 西日本豪雨災害の時に感じたことを発表する。</p> <p>○ 地域の写真を掲示し、どのように感じた課を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怖かった。</li> <li>・見たことのない雨の量で驚いた。</li> <li>・違う地域はもっとすごい被害があって、驚いた。</li> </ul> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>◇どこの写真を伝えず、写真を掲示し、答えさせる。</p> <p>◇どんな様子で、自分がどのように感じたかを答えさせる。</p>	
<p>豪雨の時の備えや自分の行動について考え、伝え合おう。</p>		
<p>3 今回の豪雨で大崎上島にどんな被害（状況）があったのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路が冠水した。</li> <li>・川が増水していた。</li> <li>・断水、停電していた。</li> <li>・通行止めがあった。</li> </ul> <p>4 被害が出ている中でその時自分がとった行動を振り返り、グループで伝え合う。</p>	<p>◇「被害だけでなく、今回の豪雨によりどんな状況が発生したか」という視点を伝える。</p> <p>◇「逃げた」「逃げていない」の2択で考えさせ、それぞれの理由を短時間で伝え合う。</p> <p>◇グループ内での役割を指示する。</p>	
<p>【逃げた】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難指示が出ていたから。</li> <li>・危ないと思ったから。</li> </ul>	<p>【逃げていない】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大丈夫だろうと思った。</li> <li>・逃げようと思ったけど、浸水していて逃げられなかった。</li> <li>・平地だから大丈夫だと思った。</li> </ul>	
<p>5 グループで発表をした後に「なぜ？」という問いかけをする。</p>	<p>◇「なぜ大丈夫だろうと思ったのか？」「なぜ危ないと思ったのか？」などを問う。</p> <p>◇「逃げた」人がいた場合は、逃げる時に何か持って行ったかや、気をつけたことがあったかなども問いかけ、答えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害の傷害の防止について、学習したこと自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。[思考・判断]（行動観察）</li> </ul>

<p>6 「逃げた人」「逃げていない人」はそれぞれどんなことに気をつければよりよくなるか、グループで話し合う。</p>	<p>◇グループ内での役割を指示する。  ◇初めに個人で考えさせる。その後、グループで発表させる。  ◇それぞれの立場になって考えさせる。  ◇自分がとった行動や被害を参考にして考えさせる。  ◇防災用品についても消費期限、賞味期限、必要なもの等を問う</p>	
<p>【逃げた】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早めに行動する。</li> <li>・ 防災用品を持って逃げる。</li> </ul>	<p>【逃げていない】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2階があれば2階に逃げる。</li> <li>・ 家の中でも川や山の側にいない。</li> </ul>	
<p>7 本時の学習のまとめをする。</p>	<p>◇「これからの自分はどうするか」という視点でワークシートに振り返りを書かせる。</p>	
<p>生徒まとめ例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからは、大丈夫だろうと思わず自然災害が起きそうな時は早くから避難しておきたい。</li> <li>・防災用品を日頃から準備しておくことや、逃げ遅れた時には、家の中でもできるだけ安全な場所に移動したい。</li> <li>・家族と避難場所や避難経路、避難するタイミングについて、相談しておきたい。</li> </ul>		
<p>8 家庭学習へのつなぎ</p>	<p>◇家庭において災害に備えて行っていることがあるか確認させる。</p>	

資料 「西日本豪雨災害時の写真」

### 3 自分の命・地域を守るために行動できる

#### 小学校 【5年生 社会】

#### 自分の命・地域を守る

自然災害から命を守るためには、「公助」・「自助」とともに「共助」が重要であることについて考える。

◇本時の目標 防災福祉コミュニティについて調べることを通して、自然災害の被害を減らすには一人一人の協力が必要であることや「共助」が重要であることについて考えることができる。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準
1 本時の学習課題をつかむ。 ○ 前時までの学習を振り返る。 ○ 資料の読み取りをする。	◇防災、減災のために、国・県・町が行っている事業や対策を想起させる。 ◇大規模な災害が発生した場合、公助が十分に行われないこともあることに気付かせる。	
自然災害から命を守るために、わたしたちには何ができるのだろう。		
3 学習課題に対する自分の考えを書く。 4 資料から分かることについて話し合う。 ○ 阪神・淡路大震災の際に問題になった「公助の限界」について話し合う。 ○ 教科書の写真や「清原さんの話」から防災コミュニティでは、自然災害に備えてどのような活動がおこなわれているのかを読み取る。 ○ なぜ、防災コミュニティのような活動が必要なのかを話し合う。 5 学習を振り返り、まとめる。 ○ 自分の考えをまとめる。	◇「72 時間の壁」について触れ、人命救助は一刻を争うものであることに気付かせる。  ◇校区内の自主防災会の活動を紹介する。  ◇自然災害から命を守るためにできることは何かを考えさせる。	・自然災害から命を守るためには、「公助」にたよるだけでなく、「自助」とともに「共助」が重要であることについて考えている。 [関心・意欲・態度] (発言・ノート)
自然災害から命を守るために、私たち一人一人が防災意識を高めておくことが大切だ。そのために、私たちは、校区内の自主防災会に参加したり、防災マップの見直しなどを地域の人たちと行ったりすることができる。日頃から地域の人と顔見知りになってつながりを大事にしておくことが重要だ。		
○次時の学習を確認する。	◇実際の避難所で起こりうる状態をイメージしておくことで、自分たちの役割について考えられるよう話をする。	

#### つながり・発展

#### 【特別活動】

- 「わたしの避難手帳」を作成し、家族と話し合う。
- 防災キャンプで避難所体験をする。

#### ゴールイメージ

わたしたちは、自然災害から自分たちの命や暮らしを守るために、どんな備えをしておけばよいでしょう。  
 また、自然災害が起きたとき（起きそうなとき）自分の命を守るためにどんな行動をとればよいでしょう。



ハザードマップで自然災害のときに危険な場所を確かめたり、家族と避難場所や避難経路を確認したり、防災グッズを準備したりします。また、地域の防災訓練や避難訓練に参加して、地域との人とつながるようにします。

自然災害が起きそうなときには、国が出す防災情報や町が出す避難情報を収集して、まわりの状況に注意して、早めに避難します。

# わたしの避難手帳

～大切な命を守るために～



5年 組 番 名前 ( )

確認しよう!



○災害に備えて地域で行われている活動は？

○家族構成は？


○ペットは？                      いる      ・      いない

○避難するときは？

避難場所

避難方法

かかる時間

○事前に準備しておく物は？



○いつ、どのような備えをしたらよいか考えてみよう！

	気象庁から出される 情報	町から出される 情報	自分の備え・行動
台風が発生	○台風に関する広島 県気象情報		
雨が強まって、 近隣で床下浸 水や道路の冠 水が発生した	○大雨注意報・洪水注 意報発表 ○台風に関する今後 の見通し	○避難準備・高齢者 等避難開始発令	
湧き水、地下水 が濁り始め、川 の水が急に増え た	○大雨警報発表		
近隣で床下浸水 や道路の冠水被 害が拡大した	○記録的短時間大雨 情報発表	○避難勧告を発令	
近隣で床上浸水が 発生した	○大雨特別警報 (緊急速報メール)	○避難指示を発令	
土砂災害発生の大 きな危険が迫った			



#### 4 地域を守るために行動できる

小学校 【5年生 理科】

地域を守る

水害や災害を防ぐ工夫について考える

◇本時の目標 流れる水のはたらきと災害との関係について考え災害を防ぐ方法をわかりやすく表現している。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準
1 本時の学習課題を確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;">                     今まで学習した事を活かして、災害を防ぐ方法を考えよう。                 </div>		
2 既習の学習を想起し、どのような工夫が必要か考える。 ○ しん食(地面をけずる) ○ 運ぱん(土や石を運ぶ) ○ たい積(土や石を積もらせる) ○ 川の曲がったところの外側の流れが速く、深くなっている。 ○ 川岸がけずれないような堤防をつくる。 ○ 川の上流の方が川はばは細くて、流れが速くなっている。等	問題 川のきけんはどこにあり、それを防ぐにはどのような工夫がありますか。  ◇前時までの学習内容を想起できるよう掲示しておく。 ◇前時までの学習を想起できるように机間指導時に確認し、教科書・ノート等を見て考えるよう支援を行う。	・流れる水の働きを理解し、自分の言葉で表現している。 [科学的な思考・表現] (ワークシート・記録分析)
3 考えたことをもとに、グループごとに仮想の川の絵に書き込む。	◇グループ内で全員が活動できるようにやることを明確に指示する。 ◇川のどこにどんなものがよいか、なぜ必要なのかを考える。	
4 全体で交流をする。 ・自分たちにできることは何だろうか。 ・さらにどんな取組が必要だろうか。	◇自分のグループの考えと比較させながら意見交流させる。	
5 本時の学習のまとめをする。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">                     ・近所の川には、消波ブロックや護岸が整備されている。                      ・川での災害を防ぐには、危険か所を予想して、てい防や遊水地などをつくる。                 </div>		
6 ふりかえりをする。	◇本時のふりかえりをもとに、自分の生活に活かしてみたいことを発表させる。	

資料「野外観察時の写真」「増水した時の川の写真」※被害児童へ配慮が必要

主題名

よりよい社会をつくるために社会参画の意識をもつ【C 社会参画, 公共の精神】  
～「一中生に, 声をかけてください!」～

本主題で育成する資質・能力

思考力・判断力・表現力

日 時 平成30年11月 第4校時  
場 所 教室  
学 級 第2学年

## 1 主題のデザイン

### 本時の目標

- 震災後に中学生が作成した「希望新聞」にこめられた思いを知り, 社会のために何ができるのか考えることで, 社会の一員としての自覚をもち, 一人一人が協力してよりよい社会をつくろうとする実践意欲を培う。

### 主題について

よりよい社会の実現のためには, 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高めることが求められる。社会参画の意識とは, 共同生活を営む人々の集団である社会の一員として, その社会における様々な計画に積極的に関わろうとすることである。社会連帯の自覚とは, 社会生活において, 一人一人が共に手を携え, 協力し, 誰もが安心して生活できる社会をつくっていかうとすることである。

本資料は, 東日本大震災の1週間後に中学生によって発行された壁新聞を題材にしている。

本資料の特徴は, 次の2点である。

1点目は, 震災後実際に中学生が発行した新聞であることである。そのため, 被災者であった中学生たちが, 社会のために行動しようとする思いが表れており, 中学生の目線で考えやすい。

2点目は, 日常生活ではなく, 災害時に焦点を当てていることである。今年は西日本豪雨等, 生徒の身近にも災害が起こっているため, 本資料を通して, 今の自分にできることを具体的に考えやすい。

### 児童生徒について

事前アンケートの結果は以下の通りである。

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
自分が住んでいる地域のことが好きです。	30% (10名)	39% (13名)	21% (7名)	9% (3名)
地域とかかわりながら, 地域のことを知ることができています。	24% (8名)	30% (10名)	42% (14名)	3% (1名)
地域のためにできることを考えています。	15% (5名)	27% (9名)	42% (14名)	15% (5名)

「自分が住んでいる地域のことが好きです。」については, 69%の生徒が肯定的な回答をしている。その反面, 「地域とかかわりながら, 地域のことを知ることができています。」については, 45%の生徒が否定的な回答をしている。その原因は, 地域と生徒との関わりが希薄であるからだと考えられる。生徒からは「地域の人のことをあまり知らない。」「知らない人と関わらない。」等の意見が挙がった。

また, 「地域のためにできることを考えています。」については, 57%の生徒が, 否定的な回答をしている。その原因は, 地域と生徒との関係が希薄なために, 地域の一員, 社会の一員として行動することへの自覚がないからだと考えられる。

### 指導の工夫について

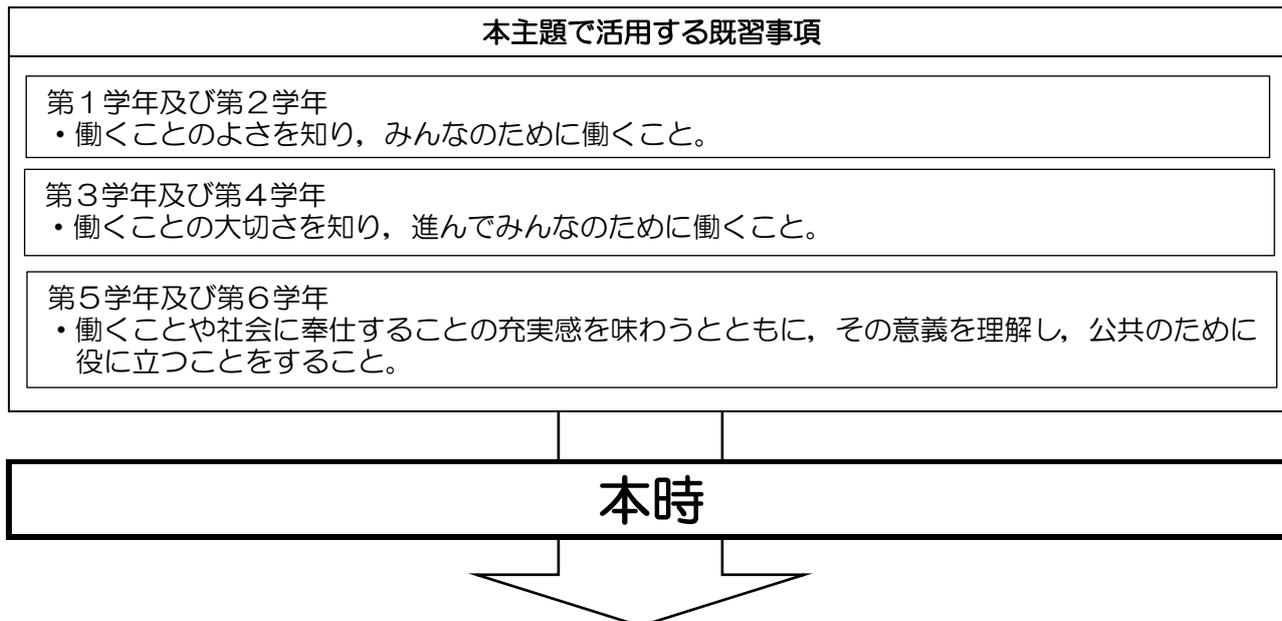
指導にあたっては, 次の3点の工夫を行う。

1点目は, どんな立場でも社会参画ができることに気付くことができるよう, 「一中生に, 声をかけてください!」という見出しにこめられた思いについて考えさせることである。

2点目は, 「中学生」として社会でできることを考える意識をもち, 具体的な行動を思い描くことができるよう, 本資料の内容を考えた後に, 自分自身が社会のためにできることについて考えさせることである。

3点目は, 社会との関わりについてより深く考えることができるよう, 被災地の写真やボランティア活動を経験した人々のエピソードといった壁新聞以外の補助的な資料を活用することである。

## 2 主題の系統性



## 3 授業後の児童生徒の姿（本時の評価規準）

社会参画の意識を高め，よりよい社会の実現に向けて，社会のために何ができるか考え，一人一人が協力してよりよい社会をつくることについて考えている。

## 4 本時の目標

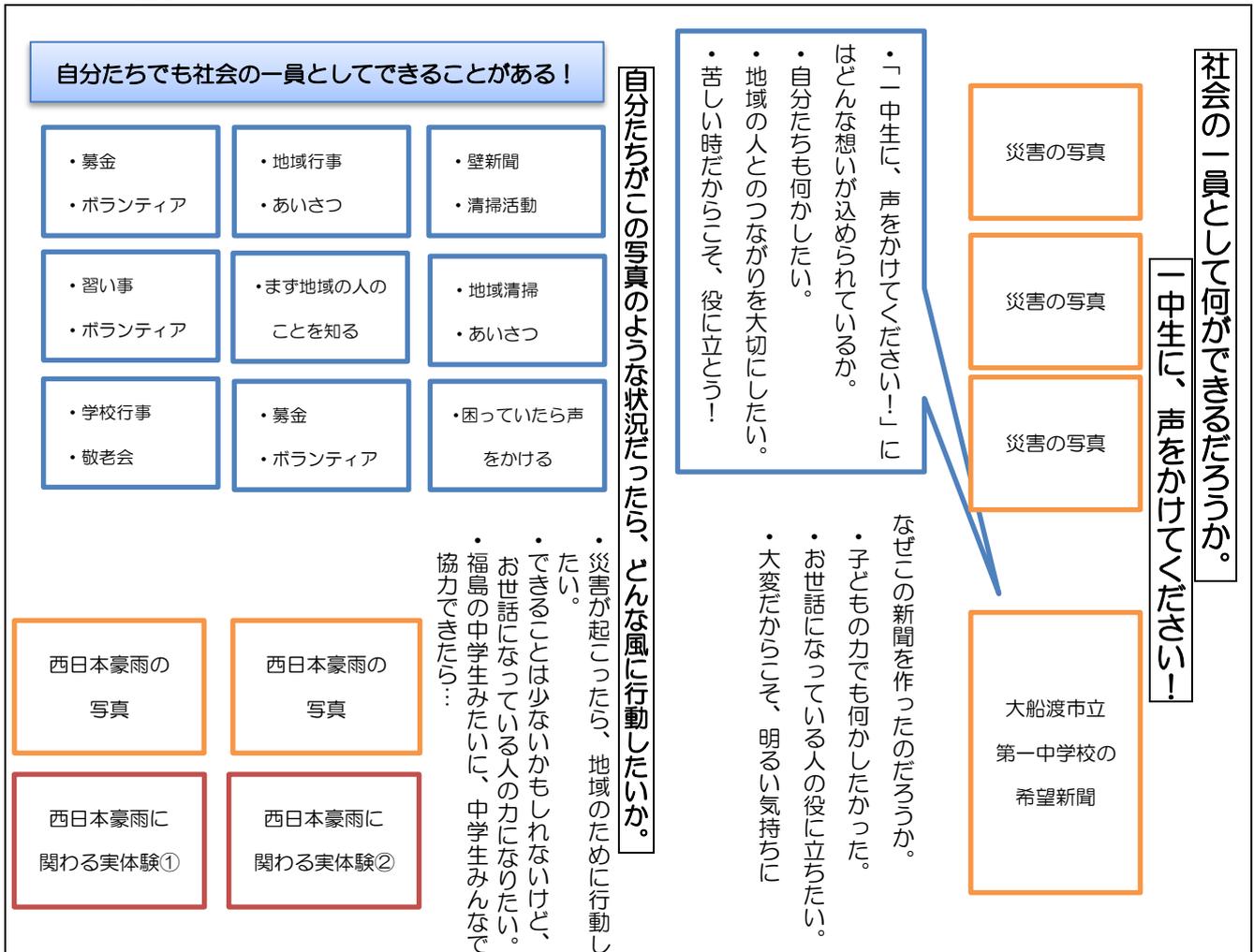
震災後に中学生が作成した「希望新聞」にこめられた思いを知り、社会のために何ができるのか考えることで、社会の一員としての自覚をもち、一人一人が協力してよりよい社会をつくろうとする実践意欲を培う。

## 5 本時の学習展開

主な学習活動 ○指導者の主な発問 ・ 生徒の思考		○指導上の留意事項 ◎評価規準（評価方法）
3 分	<p>1 被災地の写真を見て、災害に対するイメージをもつ。 ○これらの写真を見てどう思いますか。 ・怖いし、大変そう。 ・これからどうやって生きていくんだろうか。</p> <p>○今日は、みんなが社会のために何ができるのか考えましょう。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">社会の一員として何ができるのだろうか。</div></p>	<p>○災害に対する具体的なイメージを持つことができるよう、東日本大震災の様々な写真を見せる。</p>
40 分	<p>2 資料（新聞）を読んで、被災地の中学生の思いについて考える。 ○この新聞を作った中学生も被災者です。なぜこの新聞を作ったのだろうか。 ・子どもの力でも何かしたかったのだと思う。 ・いつもお世話になっている人のために役に立ちたかった。 ・大変なときだからこそ、明るい気持ちになってもらいたかった。</p> <p>○「一中学生に、声をかけてください！」という見出しにはどのような思いが込められているだろうか。 ・自分たちも何かしたいという思い。 ・同じ地域に住む人たちとのつながりを大切にしたい。 ・苦しいからこそ、自分たちが少しでも役に立ちたい。</p> <p>(○この新聞を作った中学生たちは辛くなかったのか。) ・すごく苦しかったし、助けてほしかったと思う。 (○中学生たちは助けてほしいという気持ちにならなかったのか。) ・周りの人もみんな辛かったと思う。でも、大人が動いている姿を見て、自分たちも何かしたいという気持ちになった。 (○とても辛い状況のはずなのに、どうして前向きな行動ができるのだろうか。) ・辛くて何もできない状況を変えたかったから。</p> <p>3 自分の身に同じような災害が起こった場合を想定して、自分自身はどう行動したいかを考える。 ◎この写真のような状況だったら、あなたならどんな風に行動したいと思うか。 ・危ない場所には近づかないし、逃げる。でも、その時に近所の人に声をかけて、少しでもたくさんの方が助かるようにしたい。 ・友達や家族といっしょに、土砂や瓦礫を片付ける。 ・学園全体に募金を呼びかけて、困っている地域に送りたい。 ・この中学生のように壁新聞を作って、何かできることを呼びかける。呼びかけるだけでなく、行動に移したい。 ・災害が起きてからだったら、できないこともたくさんある。だから、しっかり協力できるような社会にしたい。 (○自分自身も大変なのに、どうして周りのために行動しようと思えるのか。) ・何もしないのではなく、一人一人が少しでも行動を起こすことで、気持ちも明るくなると思うから。</p>	<p>○自分と同じ中学生という立場でも災害時に行動を起こせることに気付くことができるよう、本時の資料を範読する前に生徒に提示した写真がどのような状況で撮影されたものか解説する。</p> <p>○災害について具体的に考えることができるよう、西日本豪雨での写真を見せる。 ○誰にでも社会のために行動することができることを感じることができるよう、生徒にとって身近な人が行っている社会参画について紹介し、エピソードが書かれたパネルを貼る。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">自己決定の場を与える</div> <p>○自分の行動も社会参画の一つだと実感できるよう、班での話し合い活動で自分が社会参画だと考える体験を話す機会を作る。</p> </p>

	<p>(○災害のときに、いきなり協力することはできるのか。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力することはできる。辛い時だからこそ、団結できる。でも、普段から知っている人たちだったら、もっと協力できると思う。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">共感的人間関係を育てる</div> <p>○お互いの考えを知り、認め合うことができるように、各班がホワイトボードを使って交流した内容を黒板に掲示し、意図的指名を用いて全体交流を行う。</p>
7分	<p>4 振り返りを書き、交流する。</p> <p>○今日の授業を受けて、これからどんな気持ちで「社会の一員」として生きていくのか書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人とのかかわりがあまりないのですが、もし災害が起こったときには〇〇さんのようにボランティアに参加したいです。</li> <li>・△△さんの体験を聞いて、自分がしてきた行動の中にも社会とつながっていたことがあったことに気づいた。これからは少しでも社会のことを考えて同じ行動を続けたい。</li> <li>・災害はどの場所でも起こるかもしれないから、普段からしっかりあいさつをして、地域の人とのかかわりをもちたい。</li> <li>・私の知り合いにも災害で困っている人がいます。今からでも自分にできることを考えて、役に立ちたいです。</li> </ul> </div>	<p>◎社会参画の意識を高め、よりよい社会の実現に向けて、社会のために何ができるか考え、一人一人が協力してよりよい社会をつくることについて考えている。</p> <p>(ワークシート)</p> <p>◎社会でできることをどのように考えているのか交流するために、2～3名の振り返りを発表する場を設定する。</p>

## 6 板書計画



身近な地域のハザードマップから課題を発見し、その解決方法を考察する。

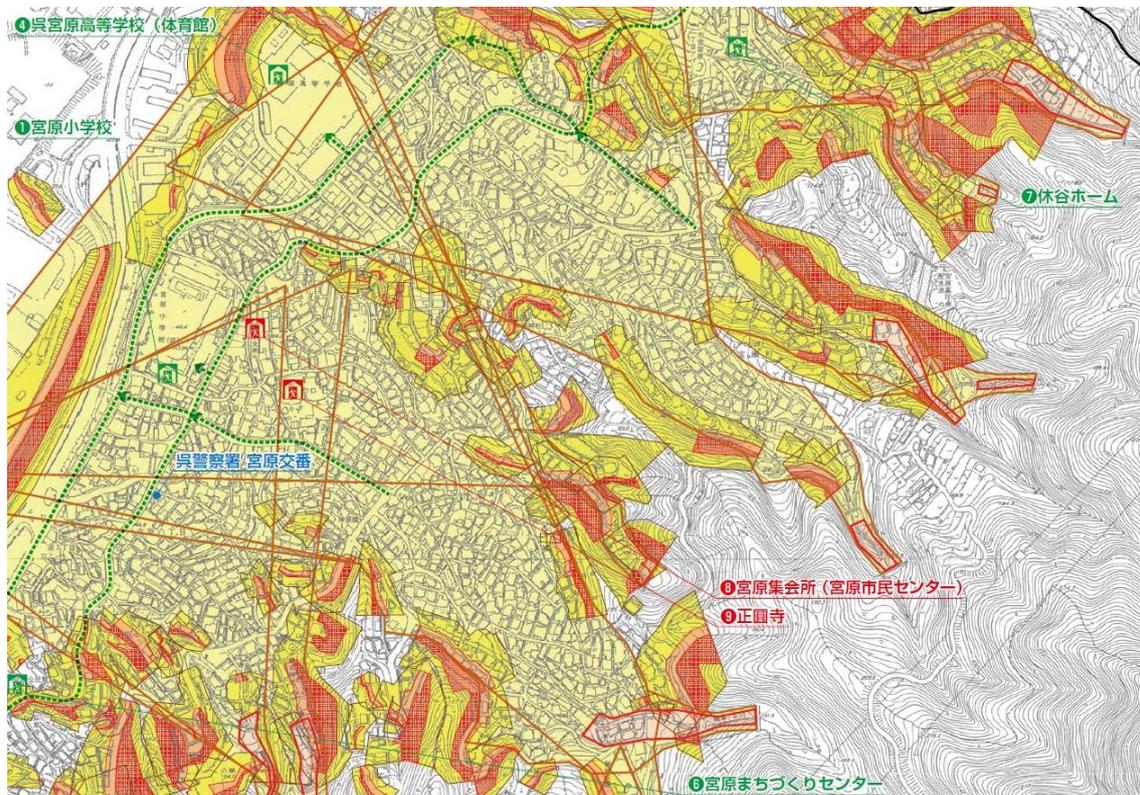
◇本時の目標 呉市宮原地区の土砂災害ハザードマップから学習課題を設定し、その課題についての答えを考察する。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準
<p>1 学習課題を見いだす。</p> <p>○ 宮原地区のハザードマップから課題を発見する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害警戒区域内の学校が土石流の避難所に指定されている。</li> <li>・土砂災害警戒区域外でも避難所に指定されていない学校もある。</li> <li>・何を基準にして土石流の警戒区域を設定しているのか。</li> </ul> <p>2 本時の学習課題を設定する。</p>	<p>◇KJ 法により幅広い意見を出させてハザードマップへの関心を高めた後に、視点を限定してさらに考えさせる。</p> <p>◇課題発見の視点：土砂災害のハザードマップの中の土石流の警戒区域と特別警戒区域の範囲表示に着目させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡散思考を使って、幅広い視点で考えることができている。</li> <li>・収束思考を使って、限定した視点で深く考えることができている。</li> </ul>
<p>なぜ、宮原地区の危険な場所はどこなのか。どんなところで土石流が起こるのか。</p>		
<p>3 学習課題について考える。</p> <p>○ 既習の知識から個人で答えを予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急斜面だから危険なのではないか。（等高線の間隔が狭い場所）</li> <li>・雨の降り方が違うのではないか。</li> <li>・地形に違いがあるのではないか。</li> </ul> <p>○ 個人の考えをグループで出し合う。</p> <p>○ クラス全体で議論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被害の大きさの違いは何か。</li> <li>・土石流の原動力は何か。</li> <li>・集水域の広さや谷地形の形状と被害の関係</li> </ul> <p>4 本時の学習のまとめをする。</p> <p>○ 振り返り</p>	<p>◇感覚的な疑問や課題意識を、これまで学んできた教科の知識を使って考えさせる。</p> <p>◇なぜ、そこが危ないと分かるのか、具体的な根拠を考えて予想させる。</p> <p>◇地形図から地形の特徴に着目させる。</p> <p>◇自分の意見との共通点や相違点を意識しながら議論させる。</p> <p>◇本時で新たに得た見方・考え方をまとめて振り返らせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形図を基に学習課題の答えを予想している。[知識・技能][思考・判断・表現]（ワークシート）</li> <li>・振り返り [思考・判断・表現]（ワークシート）</li> </ul>

資料「保存版 呉市土砂災害ハザードマップ<宮原地区>平成28年6月」

「地理院地図」（国土地理院 が公開している が公開している Web 地図）



保存版 呉市土砂災害ハザードマップ<宮原地区>平成 28 年 6 月



地理院地図 (国土地理院が公開している Web 地図)

[地理院地図\(25000 レベル\)](#) と [情報 > 空中写真・衛星画像 > 全国最新写真\(シームレス\)](#)

と [情報 > 起伏を示した地図 > 色別標高図](#)

(↑クリックするとそれぞれの図が表示されます。)

→ [重ね合わせた図](#)

(↑クリックすると地図と空中写真と色別標高図が重なったものが表示されます。)

(※) 地理院地図の使い方は、関係資料の「自分の街を知ろう！地理院地図にアクセス」を参照

## 5 教科横断的な実践及び総合的な学習の時間

小学校 第3・4学年	総合的な学習の時間	地域を守る
単元名	みんなでつなぐ「いのちの輪」 ～避難所生活について考えよう～	
本単元で育成する資質・能力	問いを立てる力・論理的に考える力・協働して解決する力	

日時	平成30年9月 第5校時	学年	第3・4学年
研究主題	いのちを守り心を育てる防災教育の推進 ～地域と協働する協調的な学びを通して～		
本時の目標【授業のねらい】			
◎避難所運営のシミュレーションゲームを通して、想定し得るリスクに対処しながら、多くの人が情報共有できるためのシステム作りや、他者に対する思いやりのある優しいルール作りが必要となることを理解する。			
授業の見どころ			
地域の方・保護者の方にも子ども達と共に本活動に参加していただくことで、家庭全体、地域全体で災害に備える意識を高める。子ども達は本学習を通して、保護者や地域の方と積極的にコミュニケーションをとり、大人の知恵を借りながら自分たちなりの意見を出しあう。そして、思いやりある避難者の配置や生活ルールを考えていく授業である。			

### 1 カリキュラムマネジメントによる学びのデザイン

	1 学期	2 学期	3 学期
総合的な学習の時間	スマイルサポートプロジェクト(全70時間)		
	<b>学習のスタート</b> 地域に暮らす人々(3)		
	<b>月1訪問「ひまわり交流会」をしよう(21)</b> ・交流会を計画しよう ・ひまわり交流会をしよう ・お年寄りの不自由さを知ろう【高齢者体験】 ・お年寄りの不自由さを知ろう【車いす体験】 ・月1訪問サポートプランを考えよう ・月1訪問をしよう		
	<b>スマイル新聞をつくらう(5)</b> ・体験したことやわかったことを新聞にまとめよう ・新聞コンクールに出品しよう	<b>学習発表会で発表しよう(5)</b> ・体験したことやわかったことを劇にまとめよう	<b>学習のゴール</b> <b>スマイルサポート kids になろう(16)</b> ・お世話になった人に案内状を書こう ・スマイルサポート kids 認証式をしよう ・スマイルサポートカードを作って発信しよう
<b>自分たちにできることを考えよう(20)</b> <b>～サポートのしかたを学ぼう～</b> ・福祉の仕事を知ろう ・ハンドケアを学ぼう ・歌ってふれあい「マイソング」 ・シニア運動会 ・ <u>みんなでつなぐ「いのちの輪」</u> ・地域防災参観日			
<b>関連教科</b> 3年保健「けんこうな生活」 4年保健「大きくなったぼく・わたし」 3年社会「わたしたちのまちのようす」 4年社会「ごみの始末と活用」 「命と暮らしをささえる水」 3年国語「より良い聞き手になろう」 4年国語「よりよい話し合いをしよう」 行事「防災教室」「救急法講習会」	3年社会「店で働く人々」 「工場働く人々」 4年社会「なくそうこわい火事」 「防ごう事故や事件」 「地域のために尽くした人々」 4年国語「手と心で読む」 「リーフレットを作ろう」 4年理科「骨と筋肉の仕組み」 体育「多様な動きをつくる運動」 行事「地域防災参観日」「学習発表会」	3年社会「昔の道具と人々のくらし」 3年国語「モチモチの木」 4年社会「県内の地域の特色」 4年国語「わたしの研究レポート」 道徳「思いやりの形」 「おじいちゃんのごらくごらく」 「神戸の復興はぼくらの手で」	

2 本時の展開・授業デザイン（全5時間 本時1／5）

時間	授業の流れ	留意点・子ども達に考えさせたいこと等
5分	<p>1. 土砂災害の映像や避難所の写真を見て本時の学習意図をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな状況か。</li> <li>・どんな人がいるか。</li> <li>・地域ではどんな人がいそうか。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄り・子供・赤ちゃん・家族連れ・ペットを連れた人・外国人・障害のある人…</li> </ul> </div> <p>2. 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>㊦ みんなが使いやすく、生活しやすい避難所について考えよう。</p> </div> <p>3. 状況設定を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に土砂災害警戒警報が発表されている。</li> <li>・天候は大雨。</li> <li>・すでに町内で10か所以上、地域でも3か所の土砂崩れが起きている。</li> <li>・道路は土砂によってうまってしまい、通れるようになる見込みがない。</li> <li>・小学校体育館にも多くの地域の方が避難して来た。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○赤十字防災教育プログラム「まもるいのち・ひろめるぼうさい」から土砂災害の映像を視聴させ、地域でも似たようなことが起こったらというイメージを持たせる。</li> <li>○日赤提供の避難所の写真から、混雑した状況、生活しにくい状況であることをつかませる。</li> <li>○色んな人がいることを理解させ、みんなが生活するのに困難な状態に気づかせる。</li> </ul> <p>○4つのグループに分かれて行う。</p> <p>○状況設定を丁寧に行うことで、子ども達が自分事として災害状況や避難所の状況をイメージできるようにする。</p> <p>○使えるものと使えないものを確認させる。</p>
10分	<p>4. グループで相談し合い、周囲の状況や学校にある使えるものなどの条件を確認しながらみんなが使いやすく、生活しやすいように避難者カードを配置したり、避難者のニーズに対応したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の方や保護者の方にもグループに入ってもらっていただくことで活発な話し合いを促す。</li> <li>○読み手に間をとらせず、次々に読み上げさせることで、瞬時の判断が必要になることを実感させる。</li> <li>○高齢者が多いという地域実態から、高齢者がどのように避難所を使えばよいかについて考えさせる。</li> <li>○話し合い途中に数回イベントを入れ、急な変更や事件にも対応していくようにする。</li> <li>○話が進行しにくい場合は指導者が入ってフォローする。</li> </ul>
30分	<p>5. 各グループの配置結果を交流する。（1グループ3分程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配置のルール</li> <li>・気を配ったこと</li> <li>・取り組んで困ったこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○なぜそのような配置にしたのか、どんなことに気を配ったのか、根拠を明確にしながら発表させる。</li> <li>○発表を踏まえて気が付いたことを伝え、活動の価値づけを図る。</li> </ul>
42分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組んでの感想</li> </ul>	
45分	<p>6. 振り返りカードを書き、全体のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実際の避難所で起こりうる状態をイメージしておくことで、自分たちの役割について考えられるよう話をする。</li> </ul>

【準備物】 パソコン、スクリーン、体育館間取り図、避難者カード、ワークシート（振り返りカード）

【みんなでつなぐ「いのちの輪」～避難所生活について考えよう～の実践事例の関連資料】

## 避難所HUG（ハグ）

様々な災害発生時における避難所運営を机上で模擬体験するために、静岡県が開発したゲームです。避難所となる学校の体育館や教室に見立てた平面図上に、次々と避難してくる事情の異なる避難者の情報（年齢・性別・家族構成・持病など）が書かれたカードを適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。



「避難所 HUG 一式」

### 《期待できる効果》

- 1 乳幼児、高齢者、持病のある人、外国人など様々な事情の人が避難してくることを疑似体験できます。
- 2 避難所での生活を具体的にイメージすることができます。
- 3 避難所で何ができるか判断する力を養うことができます。
- 4 一緒にゲームする人と意見を交わしながら、考える力を養うことができます。

### 《必要物品参考例 1グループ分》

- ・校舎配置図（体育館や教室、グラウンドなど平面図）
- ※ 付属のCDにデータがありますので、印刷して使用できます。
- ・付箋（大）50枚
- ・A4用紙20枚
- ・黒・赤マジックペン 2～3本
- ・セロハンテープ

※詳細については静岡県のHPを御覧ください。

<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/manabu/hinanjyo-hug/index.html>

1. 目指す単元イメージ

「いつ起こるかわからない自然災害に対して、私たちはどのように備えることが大切か、そして中学生として何ができるのか考え行動していく。」



2. 単元計画（5時間）

(1) 保健 自然災害の危険 大雨や地震の恐ろしさと災害発生後の行動

(2) 道徳 震災の中で ボランティア、社会への奉仕とは何か

(3) 特別活動 共に生きる 学校が避難所になることの課題

(4) 保健 中学生による多様性ある避難所運営 実際の避難所運営



(5) 保健 自然災害による傷害の防止 西日本豪雨での被害の要因

10月 「ハザードマップづくり」  
西日本豪雨での被害箇所や土砂災害危険区域

11月 文化祭でのプレゼン発表と掲示物の展示

自然災害の危険 ～大雨や地震の恐ろしさと災害発生後の行動～

◇本時の目標 自然災害の危険は災害発生時だけでなく二次災害によっても生じること、また災害時に必要な行動の在り方について根拠をもって説明することができる。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準
<p>1 地域における西日本豪雨での被害について知る。</p> <p>2 本時の課題を知る。</p>	<p>◇西日本豪雨の影響で地域の河川が増水し、護岸が崩れ、橋が流失したり、断水になるなど大きな被害が出たりしたことを写真や新聞記事で気付かせる。</p>	
<p>自然災害の危険と災害時にどのような行動が必要か考え、根拠をもって説明しよう。</p>		
<p>3 自然災害には、一次災害と二次災害があることを理解する。</p> <p>4 地震によって、身の回りにはどのような危険が迫ってくるかグループで話し合う。</p>	<p>◇一次災害と二次災害の違いを明確にし、火災や津波などの二次災害による被害も大きいことも理解させる。</p> <p>◇グループで思考ツールを活用して多様な考えを引き出させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     液状化。停電や断水。家が倒れる。 土砂崩れ。津波が来るなど。                 </div>	<p>・自然災害には一次災害と二次災害があることがわかる。 [知識・理解]（観察）</p>
<p>5 東日本大震災で、岩手県釜石市の多くの児童や生徒が助かった理由を考える。</p>	<p>◇個人思考をさせた後、グループ内で説明させる。</p>	<p>・地震発生後の危険から、どう行動すべきか根拠を示しながら説明している。 [思考力・判断力]</p>
<p>6 津波避難の三原則を知る。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     想定にとらわれない。 最善をつくす。 率先避難者たれ。                 </div>	<p>（観察、ノート）</p>
<p>7 本時のまとめをワークシートに記入する。</p>	<p>◇日頃からの災害への意識も含めた準備を大切にすることにより、落ち着いた行動ができるようにすることが大切であることを伝え、振り返りをさせる。</p>	

震災の中で 内容項目：D－（5）社会への奉仕，公共の福祉

◇本時の目標 見返りを求めず，相手の立場に立って行動することの尊さや意義を理解し，社会への奉仕を進んで実践しようとする態度を育てる。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）
1 阪神大震災について知る。	◇阪神大震災について説明する。（1995年1月17日未明に発生 震度7 死者6000人）震災後，全国から約137万7,300人のボランティアが駆けつけた。
2 「震災の中で」を範読し，初発の感想を交流する。	◇多様な意見が出やすいように，円形の席にする。 ◇資料を読んで，率直な感想を聞く。意見が出にくい場合は，ペアトークさせる。
3 ただ見守っているだけの「私」が，なぜボランティアに参加しようと思ったのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一生懸命やっている父の姿に後押しされた。     ●後押しされてできるものですか。</li> <li>・誰かの役に立ちたいと思う。     ●ボランティアに参加することが役に立つことですか。</li> </ul>
4 もし自分がボランティアに参加して，震災にあった人から文句を言われ続けたら，あなたはやり続けることができるか。	<p>◇心情レーダーに自分のネームカードをはり，自分の理由を発表し合えるようにする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">続ける</div> <div style="text-align: center;">←————→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">止める</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている人のためにがんばる。補どうしてそう思えるの。その理由は。</li> <li>・どんなに厳しく言われても，決めたことだから最後までやりぬく。補どうしてそう思えるの。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一生懸命やっているのに，そこまで言われたらやめる。補震災で心が傷ついている人の方がもっと苦しいのでは。</li> </ul> </div> </div>
5 私やボランティアの人の心の支えになったものは何だろうか。	◇「人を救うのは人しかいない」という言葉に着目させたり，ボランティアに参加した時に，心が温くなる経験について考えさせる。
6 ボランティア活動をされている尾畑春夫さんを紹介する。	◇尾畑さんの言葉から，社会奉仕について考えさせる。
7 授業の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰かのために役に立ちたいと思う心は必ず理解し合える。</li> <li>・人には強さと弱さがある。だから互いに支え助け合って生きていくことが大切。そのことが社会貢献につながる。</li> </ul>

資料 「出典：東京書籍」

中学校 【2年生 特別活動】共に生きる

地域を守る

大地震が起きると、私たちの生活にどのような変化が起きるか考える。

◇本時の目標 大地震が起きると、私たちの生活にどのような変化が起き、今後の生活にどのような課題が出てくるか説明することができる。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準
1 西日本豪雨災害の後の状況について知る。	◇西日本豪雨時、地域では生涯学習センターが避難所になったことや市民が避難したことを知らせる。中学生も避難している。	
2 本時の課題を知る。		
「大地震が起きると、私たちの生活にどのような変化が起き、今後の生活にどのような課題が出てくるか説明しよう。」		
3 大地震が起きたら、私たちの生活はその後どんな変化が起こるのか考える。	◇思考ツールを活用し、日常生活との関連で多様な考えを引き出させる。  ・食料や水が不足する。トイレの水が流れない。電気がつかない。お風呂に入れないなど。 学校も避難所になる。	・地震発生後の生活の変化や学校が避難所になることの課題について根拠を示しながら説明している。 [知識・理解] (観察、ノート)
4 学校が避難所になると、どんな課題があるか考える。	◇学校で避難所になることで、どのような課題があるか多様な考えを出させる。  生活物資（水や食事衣類）の不足。避難所で活動する人の不足、医療の不足。健康面や精神的な不安など。	
5 避難所に入った生徒の話を聞く。		
家族同士の仕切りはなく、近所の人といっしょだった。1人1畳程度のスペースがあった。ご飯は非常食のお米と乾パンだった。毛布が配られた。受付をせずに入ったので、どこに行けばいいか分からなかった。		
6 大災害にあうと、人々の心にどのような変化が起きるだろうか。	◇災害が起きると、人々は心にも大きな傷をもたらす。PTSD（心的外傷後ストレス障害）を引き起こすこともあることにふれる。	
7 本時のまとめをワークシートに記入する。	◇防災は支援だけでなく、地域の絆を高めることが大切であり、自分たちで何が大切か考えて行動していくことが大切であること。	

多様性ある避難所運営 (演習)

◇本時の目標 災害時に学校が避難所になった時、その運営に携わる場合に必要な視点を見付け、まとめたことを互いに発表することができる。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準
1 今日の課題を確認する。		
<p>「災害時に学校が避難所になった時、その運営に携わる場合に必要な視点を見付け、まとめたことをお互いに発表しよう。」</p>		
<p>2 HUG (避難所運営ゲーム) について理解する。</p> <p>3 HUGを行う。</p>  <p>4 各グループで気付いたことを発表する。</p>  <p>5 本時のまとめをワークシートに記入する。</p>	<p>・外部講師の活用</p> <p>◇HUGとは、避難者を体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームであることを理解させる。</p> <p>◇広島市を震源地とする大地震が発生し、学校が避難所になったという想定で行う。</p> <p>様々な情報を伝える人 → 情報を聞いて、瞬時に判断しどこに避難してもらうか考えて配置する。</p> <p>◇HUGを行ってどのようなことを感じたか各グループで意見交流させ、その後、全体でも意見交流をさせる。</p> <p>◇災害の予報・予知について空振りには許されるが、見逃しは死につながる行動です。常に最悪の事態を想定して行動することの大切さを理解させる。</p>	<p>・課題の解決に向けて、話し合い等の学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>[関心・意欲・態度] (観察)</p> <p>・避難所運営に携わる場合に必要な視点を見付け、まとめたことを発表している。</p> <p>[思考力・判断力] (観察, ワークシート)</p>

自然災害による傷害の防止 ～命を守るために大切なことは何か～

◇本時の目標 西日本豪雨災害で被害が大きくなった要因について、新聞記事から考え、命を守るために大切なことは何かまとめたことを発表できる。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準
1 学習課題を知る。	◇今回の西日本豪雨災害の被害状況も知らせ、その大きさを理解させる。	
「西日本豪雨災害で被害が大きくなった要因について、新聞記事から考え、命を守るために大切なことは何か説明できる。」		
2 西日本豪雨災害で被害が大きくなった要因が何か考える。	◇各グループで、新聞記事を元に被害が大きくなった要因として考えられることについてマークをつけさせる。  【記事から予想される要因】 ①当日の気象状況 ②正常性バイアス ③大雨の情報に対する正しい理解	
3 西日本豪雨災害からの教訓から、命を守るために大切なことは何かまとめる。	◇新聞記事にマークした箇所を通して、命を守るために必要な行動や意識について自分の考えで説明させる。	
4 各グループで出た意見をまとめて発表する。	◇被害が大きくなった要因から、命を守るために大切なことをつなげて発表させる。	・被害が大きくなった要因から、命を守るために大切なことをつなげて説明できる。
5 本時のまとめをワークシートに記入する。	◇災害から命を守るために、自分で考え、自分で判断し、自分で行動できること。日ごろから地域の人とコミュニケーションを図り、絆を深めておくことが大切であることを押さえさせる。	[知識・理解] (観察、ワークシート)

町内の被害を伝える新聞記事（中国新聞）

### 三篠川 4橋壊れる

#### 堤防崩落急ブレーキ

向原住民「日常の道怖い」



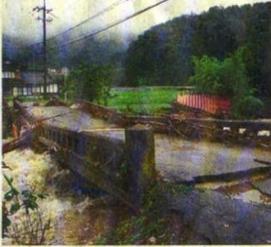
三篠川の増水で、決壊した実重橋（奥）へ続く堤防が崩れ、向原町（手前）の町内を洪水が襲った。8日午前9時10分、安芸高田市向原町坂向原で、堤防が崩れ、向原町を洪水が襲った。堤防の崩壊は、向原町を洪水が襲った。堤防の崩壊は、向原町を洪水が襲った。

三篠川の増水で、決壊した実重橋（奥）へ続く堤防が崩れ、向原町（手前）の町内を洪水が襲った。8日午前9時10分、安芸高田市向原町坂向原で、堤防が崩れ、向原町を洪水が襲った。堤防の崩壊は、向原町を洪水が襲った。

### 向原9カ所で橋流失・損壊

安芸高田市向原町では、町内を流れる川の増水や流木の影響で、市道や農道に架かる計9カ所の橋が流失や損壊した。三篠川に架かる高大地橋は橋桁が跡形もなく流され、寺山橋は流木が引っかかるとして亀裂が入った。

安芸高田市向原町では、町内を流れる川の増水や流木の影響で、市道や農道に架かる計9カ所の橋が流失や損壊した。三篠川に架かる高大地橋は橋桁が跡形もなく流され、寺山橋は流木が引っかかるとして亀裂が入った。



増水や流木で損壊した寺山橋（7日午前7時15分、安芸高田市向原町坂向原）

### 断水・停電相次ぐ

県北3市

断水や停電も相次いで、安芸高田市向原町では、同町を流れる三篠川が増水して水道管を取り付けた橋が壊れて流れ出し、水道管がちぎれるなどして、977世帯に水を供給できなくなった。

断水や停電も相次いで、安芸高田市向原町では、同町を流れる三篠川が増水して水道管を取り付けた橋が壊れて流れ出し、水道管がちぎれるなどして、977世帯に水を供給できなくなった。



増水や流木で流れ出した、水道管を取り付けていた橋。左奥には断ち切られた水道管が垂れ下がる（7日午後0時10分、安芸高田市向原町長田）

生徒が撮影した町内の被害状況の写真



生涯学習センターに生徒が避難した時の様子

西日本豪雨によるみらいでの避難の様子

- 家族同士の仕切りはなく、近所の人と  
いっしょだった。
- 1人1畳程度のスペースがあった。
- ご飯は非常食のお米と乾パン。
- 毛布が配られた。
- 受付をせずに入ったので、どこに行けば  
いいかわからなかった。

HUG（避難所運営ゲーム）の様子



HUGを終えての感想

- 休む暇もなく、旅行者や家族つれなどの避難者の方がやってくるので大変だった。
- 普段から素早い対応をすることが大切だと分かった。
- これからに生かして**周りの人を助けたい。**

新聞記事を元に、西日本豪雨災害で被害が大きくなった要因を考える



ハザードマップづくり

西日本豪雨で橋が壊れたり、土砂崩れがあったり箇所や町内の土砂災害危険地域を記載



## 6 避難訓練(地震・津波)実施計画事例

### 中学校 避難訓練(地震・津波)実施計画事例

自分の命を守る

1 ねらい 地震・津波発生時に適切に行動できるよう、避難経路及び安全で迅速な行動について理解し、実践的な訓練を行うことで体得する。

〔行動目標〕 おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない(お・は・し・も)

2 日時 平成30年11月2日(金) 15:22～ 雨天中止 掃除なし

実施可否判断は14:30

15:22 地震発生(震度6強以上)放送①

地震情報を収集する。

部室側に向いて  
南から2年1年3年の順で

15:25 津波警報発令 放送②

学級ごとにグラウンド中央にて集合点呼、そろった学級から高台の公園へ出発

16:00 高台の公園にて集合・点呼完了

16:05 講評など

16:15 徒歩で中学校へ移動する。

16:40 下校(到着した学級から点呼して学級担任が解散指示)

・2列で  
・無駄話なし  
・整然と!  
・緊張感をもって

### 3 訓練内容

(1) 15:22 **地震発生** 放送を流す。(担当 教頭)

★授業担任→①放送を聞かせ、生徒に指示を出す。

机の下に入り、頭、上半身を保護させる。机の脚をしっかりと持たせる。

②急いで教室の出入り口のドアを開け、出口を確保する。

次の放送があるまでその場を動かない。

★職員室にいる職員→①校舎内の危険箇所を確認する。(担当 副担任 授業のない職員)

②情報を持ち寄り、避難経路を決定する。

(2) 15:25 **津波警報発令** 放送②

★授業担任→代議員を先頭に、男女一列ずつ出席番号順に廊下に並ばせ、グラウンドに集合、

授業担任は、教室内確認後、出席簿を持ってグラウンドにて点呼確認を行う。

全員そろっていれば学級ごとに避難場所(高台の公園)へ移動する。

そろっていない場合は搜索し、全員がそろうまで出発しない。

★職員室にいる職員→①避難経路誘導(担当 ○○, ○○, ○○, ○○, ○○, ○○)

②持参物の持ち出し(担当 主幹教諭, ○○, ○○, ○○)

(3) 家屋やブロック塀が倒壊していることを想定し、周囲の安全に気をつけながら静かに歩道を歩く。

避難想定ルートは別紙参照 原則 授業担任が先導して避難する。3-4は○○

(4) 16:00 公園で集合・点呼 グラウンド中央に、朝礼隊形に集合し整列する。(○○指示)

代議員に点呼させ、授業担任に報告させる。

「○年○組 全員います。」 →授業担任→学年主任→生徒指導部代表→管理職

「○年○組 ○○さんがいません。」 →授業担任→学年主任→学年教員で搜索開始

(5) 講評(司会 教頭)(校長あいさつ、まち協会長あいさつ、講評 市地域政策課 地域防災相談員)

(6) 16:15より 徒歩で中学校へ移動する。(経路にまち協の立哨協力あります。)

到着したクラスから、静かに教室へ戻り、学級担任の指示で全員そろったことを確認して解散。

#### 4 地震発生時の避難経路

放送を聞いて避難経路を確認する。込み合う可能性があるため、“お・は・し・も”の行動目標に留意させる。

○東校舎で授業を受けているクラス・・・東校舎→グラウンド→グラウンド門→高台の公園へ

○北校舎で授業を受けているクラス・・・1年は渡り廊下から南校舎経由でグラウンドへ

3年は西階段で1階まで降りてグラウンドへ

その後1, 3年ともグラウンド門から出て高台の公園へ

グラウンド門の出口での安全指導（○○）

#### 5 係分担

○消防署・セコムへの事前連絡（教頭）（必要があれば）

セコムTEL ※※-※※※※ 消防署TEL ※※-※※※※

○地震発生・校内放送（教頭）

○計時・救護（○○） ○生徒誘導→（授業・学級担任）\*出席簿を持参する。

○避難経路の安全確認 終わればすぐに避難経路の誘導へ

南校舎（○○） 北校舎（○○） 東校舎（○○） グラウンド門（○○）

校外（○○, ○○）・・・異常なればトランシーバで連絡する。

○校内の避難経路の誘導（南校舎 ○○）（北校舎 ○○）（東校舎 ○○）

○記録（写真等）（○○）

#### 6 別室（学習室，相談室，保健室）にいる生徒

担当者とともに避難を行う。

#### 7 持参物 \*職員室にいる職員が分担して持ち出す。

ハンドマイク（○○） 緊急連絡カード+救急カバン（○○）

#### 8 **事前準備** 昼休憩中に上履きを下足に履き替え、靴底をきれいにして5時間目からの授業を受ける。

美化委員は各学級4枚ずつのぬれ雑巾を下駄箱に準備する。訓練終了後に片付ける。

### 放 送 内 容

#### 放送①

津波・地震訓練放送 津波・地震 訓練放送

「只今、強い地震が発生しました。生徒の皆さんは、机の下に入り、頭、上半身を保護してください。安全が確認できるまでその場を動かないでください。」

\*繰り返す。 約50秒そのまま

#### 放送②

「只今、津波警報が発令されました。16:15頃、大きな津波が沖に到着する危険があります。

生徒の皆さんは、次の避難経路を通して、グラウンドに学級ごとに集合し、点呼完了後、高台の公園グラウンドに避難してください。

北校舎2階で授業を受けているクラスは渡り廊下を通して南校舎西階段を下りてグラウンドに集合してください。

北校舎3階で授業を受けているクラスは西階段下りてグラウンドに集合してください。

東校舎は階段を下りてグラウンドに集合してください。

（南校舎の授業がある場合は、避難経路図のとおりアナウンスを追加するものとする。）

高台の公園までの避難は全員がそろった学級から順にグラウンド門から高台の公園に出発します。私語をせず、車や、倒壊している家屋に十分気をつけて移動してください。その際、必ず誘導の先生や地域の方の指示にしたがってください。」 \*繰り返す。

9 避難訓練を終えて（反省点を次回の訓練にいかすこと）

避難開始後 16分58秒で高台の公園に避難が完了した。  
以下、アンケートによる気づきを記載する。

- 1 予想より早く30分以内で避難完了という目標をクリアできた。
- 2 年1回は地震・津波想定避難訓練をこの時期に継続的に行いたい。
- 3 生徒が歩道いっぱいになると一般の方の通行に支障が出る。自動車の通行も考えられ、災害発生時ほどのように移動するのか検討が必要である。
- 4 地域の方がポイントに立哨指導をしてくださった。
- 5 歩くペースを早くしたらよい。生徒が避難を開始するタイミングを再確認したい。
- 6 放送は静かに聞く、移動も無言を徹底する。
- 7 高台の公園での生徒たちの態度もよかった。毎年やるべきである。
- 8 初めての取組では職員会議で役割分担や指導事項について、共通理解を図るとさらによい。
- 9 上履きで避難すべきであるが、ガラス、瓦礫、一次避難から連続して二次避難所への移動がある場合を考えると今の本校の上履きの耐久性、安全性に不安がある。価格が上がる心配はあるが、上履きの見直しも考える必要があるかもしれない。子どもには体育館シューズに履き替えて避難するとか、家庭では寝室に耐久性のある靴を準備しておく指導が必要である。
- 10 緊急連絡カードの持ち出しについては持ち出し用の袋が必要である。重いのでリュックタイプがあればよい。
- 11 今回は特別支援学級の生徒も交流学級からの避難だったが、授業担当の先生が特別支援学級の生徒の点呼確認ができてよかった。
- 12 歩道橋は安全なのかどうか疑問がある。（今年度改修工事があったばかりである。）
- 13 ○○さんはエレベータが使用できないことを想定すれば、車いす運搬2名、本人の移動介助1名の3名は必要となる。生徒も含めて支援体制を確認する必要がある。本人も支援を周囲に求められるよう練習をしておく。
- 14 静かに移動できたかも大事であるが、実際の災害のときを考えて移動できたかという視点で評価し、次の訓練に生かす必要がある。ハザードマップを使った学習など、自分事として考えざるを得ない状況を生徒に指導しておく必要がある。

別紙資料 高台の公園避難訓練紙上シミュレーション

釜石の奇跡 災害から命を守る避難3原則

- 原則1：想定にとられるな
- 原則2：その状況下で最善を尽くせ
- 原則3：率先避難者たれ



- 中学校のある場所の海拔高さは、 **1.5m** →
- 南海トラフ地震 震度6強以上 想定
- 最高津波水位 満潮時 **2~5m**
- 最大波到達時間 **218分**
- 津波影響開始時間 **26分**

これはあくまで気象庁の想定であり、想定をこえる可能性、津波以外に建物倒壊液状化現象など様々な災害が考えられる。

そこで11月2日（金）に津波想定全校避難訓練を実施する

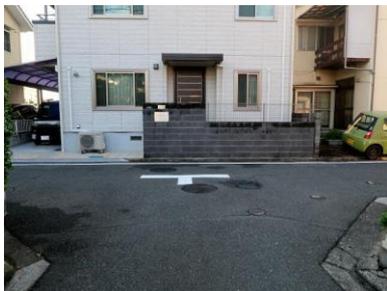
各ホームルームから、高台の公園（海拔5m以上の所にあり、かつ、浸水想定区域外にあり、市の指定緊急避難場所である。）へ一次避難する。

指定緊急避難場所・指定避難所 Designated emergency evacuation area・Designated emergency shelter 指定应急疏散场所・指定避难所 / 지정 긴급 피난 장소·지정 대피소						
	土砂 Landslide 泥石流 土石	洪水 Flood 洪水 홍수	高潮 Storm surge 风暴潮 暴潮 浪滔	地震 Earthquake 地震 지진	津波 Tsunami 海啸 津波 浪滔	公園
●指定緊急避難場所 災害時に避難する場所						
●指定避難所 一定期間避難生活をおくる施設						
指定緊急避難場所	×	○	○	○	○	
指定避難所	×	×	×	×	×	

- ①スタート ○○先導 グラウンド門 (○○) ②左折 (○○) +まち協1 ③直進



④右折 (〇〇)



⑤店を左折 (まち協2)



⑥直進, (まち協3) つきあたりを右折



⑦直進 (まち協4)



⑧△△食堂前を左折 (〇〇+まち協5) ⑨西へ進む (まち協6)



⑩歩道橋入口 (まち協7) ⑪陸橋を渡って (まち協8)



⑫歩道橋出口から西へ (まち協9)



⑬直進



⑭高台の公園入口看板右折 (まち協10)



⑮歯科院を直進



⑩高台の公園入口（まち協 1 1）



⑪坂の途中でスロープを選択（まち協 1 2）



⑫スロープ途中（まち協 1 3）



⑬公園の東から広場へ進入（まち協 1 4）



⑭〇〇先生の全体指示で整列する。



広場へ全員集合し、点呼、報告、健康観察、講評後、同じルートで帰校する。

帰校時の安全確保のためにまち協の 14 名の方が見守りをしてくださるので感謝の言葉を述べる。

**タイムスケジュール**

出発 15時25分

点呼完了 16時00分

高台の公園出発 16時15分頃

帰校完了、解散 16時40分頃

トランシーバー持参で要所に職員配置

先導・集合指示 **〇〇①**

避難誘導 **〇〇②**

救護 **〇〇③**

最後尾 **教頭④**

まち協 **担当者⑤**

※ **まちづくり協議会 14 名（避難経路の立哨として）**

**市地域政策課 地域防災相談員**のご協力、ご指導を行っていただく。

## 7 児童生徒作文

### 児童生徒の作品資料 1

#### 家族の大切さ

府中町立小学校 五年児童

私は、この夏、家族の大切さや地いきの人と助け合って生きていく大切さについて考えました。2018年7月6日に災害が起きました。その日、西日本に大雨が降り、府中町にも土砂災害特別警報、ひなん勧告が発令されました。

私の家の近くでは山がくずれて土砂や水がゴーゴーと音を立てながら家の前の道路に流れてきました。そのとなりの家の人も土砂のことを近所の人に教えてもらったそうです。そのこう景を見たときに、とてもこわくなりお母さんに、

「だいじょうぶ？だいじょうぶなの？」

と、何度も言っていました。

私は、となりの家の人の話を聞いてお母さんといっしょに外に出て様子を見に行きました。すると、目の前の道路は土砂だらけになっていて、はしの方はまだ水が流れているじょうたいでした。お母さんは、雨の中カップを着て水が流れるように土砂をどけていました。その時お父さんは、じゅうたいで帰るのが遅くなっていました。後でわかったことですが、市内から府中町まで歩いて一時間半かけて帰ってきたそうです。ふだんとは違う一日だったため、お父さんに会えた時は不安がなくなり安心しました。お母さんに代わりお父さんが道路の土砂をどけていつでもひなんできるようにしました。私は、家族のために衣類や食料、ペットの用意をしました。

ここまで準備をしたにもかかわらず、その日の夜に寝ているあいだに土砂がきたらどうしよう、こわいなどおびえていました。すると、家族がいっしょに寄りそってくれたので安心して寝ることができました。

災害があった次の日に、私が目を覚ますと、お父さんとお母さんや地いきの人たちで土砂や木くずなどを片付けました。私も地いきや家族の一員としてできるかぎりのことをしたいと思い、その作業に加わりました。そして、地域の人やお父さんたちと協力してなんとか土砂を片付けることができました。

今回、土砂を片付けてみてとても匂いが強くてくさく、何よりも重いなと感じました。テレビなどで流れる映像や写真、人がうもれているというニュースを聞くたびにそのときの体験がよみがえってきて、できることなら土砂をどけて助けてあげたいと思いました。私は、その思いとともに家族の大切さと地域の人と仲良くしたり協力したりする大切さも知りました。そして、あらためてお父さんやお母さんやペット、そして何より自分の命を大切にしたいと思いました。

## 児童生徒の作品資料 2

大雨災害を経験して

府中町立小学校 五年児童

7月6日に私が今まで経験したことのない大雨が降りました。雨がずっとふり続いて、早く止まないかなと思っていました。しかし、何日もふり続いてだんだんとひどくなってきました。すると、お母さんやお父さんのスマホからけいほうを知らせる大きな音が聞こえました。私がこわがっているのを見てお父さんが寄りそってくれました。とてもうれしかったけど、外の様子が気になって、窓の外を何度も見ました。雨の音がうるさくてあまり眠れませんでした。

朝起きるとけいほうが出て、学校が休校になりました。テレビや新聞でもいろいろな所で大きなひ害が出ていました。こんなにたくさんのひ害が出るとは思っていなかったので、びっくりしました。この大雨でうちの近くもどこかくずれのではないかと心配になりました。

学校に行けるようになった日、今度はえのき川がはらんし、自分の町にも大きな被害が出ました。お母さんがむかえに来たときはとても安心しました。

次の日、近所の人がスコップを借りに来ました。会社の人の家が大変だったので手伝いに行くということでした。終わって返しに来た時は、汗だくでどろどろになっていたのを見て、私にも何かできることがないかとお父さんやお母さんに相談しました。お母さんは、

「少しでもいいから、自分のおこづかいでぼ金をしてみたら。」

と、言ったので少しだけだけどぼ金をしました。お父さんも

「自分の気持ちで、一つ良いことをすればきっと喜んでもらえるよ。」

と、言ってくれました。

その数日後、矢野に住むおじさんが大雨から何日もたっているのに断水をしていたので、私たち家族は水や食料やウェットティッシュなどを用意して渡しました。

「困っていたから助かったよ。」

と、おじさんは喜んでいました。なんだか私もうれしくなりました。

この災害を経験し、私たち家族は他にも災害に備えてできることを考えないといけないと話しました。そこで私は、

「バッグにウェットティッシュなど、災害に使えるなものを作ればいいんじゃない。」

と、提案しました。すると、お父さんもお母さんも、

「それはいいねえ。」

と、賛成しました。

本当はこんな災害は起きてほしくなかったけど、家族と災害の話をしたことで災害が起こる前に何ができるのかを考えることができました。今回の経験や話し合ったことを日ごろから活かし、家族と助け合って行動できるようにしたいです。

### 児童生徒の作品資料 3

#### 地域のきれいの大切さ

庄原市立小学校 六年児童

私は、七月の初めに西日本豪雨が起きた時、家族と家にいました。大雨で家の近くの溝からは、水があふれて歩けないくらい道路にたまっていました。町の大きな川は橋の上まで水が増え、橋の柱には草や大きな木の枝が引っかかかっていて周りの家の床が水でつかっている状態でした。今まで見たことのない町を見てびっくりしました。

水害が落ち着いて、学校から家までの道を帰っていると、溝の底にあったゴミや小石がなくなって水が少ししか流れていませんでした。溝のその下の方にそのなくなっていたゴミや小石がたくさん集まってきていて、それだけ勢いのある水だったんだということが分かりました。プールや川遊びは楽しくて好きだけど、水害や災害は恐ろしいものだと思います。

地域にはまだ流れてきた汚水の砂が残っていて、このままほおっておいたら町の人たちが病気にかかってしまうので少し心配でした。そこで、地域の人が町をきれいにしようということで少しずつ町の掃除をしてくださっていました。

ある日学校からの手紙で「クリーン作戦」のお手紙が配られました。それを見て学校の周りをきれいにするために「クリーン作戦」のボランティアに参加することにしました。

朝から暑くて、長そで長ズボンはすごくムシムシして、汗がたくさん出ていやになりそうでした。一人一つは掃除する道具を何か持っていくように手紙を書いてあったので、私はちりとりを持っていきました。学校に行くと、私が思っていたよりたくさんの方が集まっていました。大人から子供までいました。おばさん達とグループになって行動しました。被害がすごかった川の周りがあるフェンスや道路の掃除をしました。持って行ったちりとりだけでは掃除はできなかったけれど、ほうきを持ってきていた他のグループの方が、

「一緒にやろう。」

と言って声をかけてくださいました。そして、砂や葉っぱを掃除しました。同じグループではなくても協力してやって、いろんな人たちと話ができてとても楽しく掃除をすることができました。

私がボランティアをやってよかったと思ったことが二つあります。

一つ目は、一番たくさん砂やごみがあった場所で掃除をしていたら、その近所の方が、「小学生？大変でしょう。ありがとうね。」

と言ってくださったことです。暑くて疲れていたけれど、そうやって地域の人たちに声をかけてもらいながらがんばることができました。

二つ目は、大変なことでもみんなの町をきれいにすることはとても大切なことで、消防署の方や市役所の方の気持ちが分かったことです。

私は、今回の災害のように大変なことがあった時、一人では解決できないこともみんなが協力すれば解決することができるということ、協力することの大切さを学びました。

## 児童生徒の作品資料 4

災害での経験から

三次市立中学校 三年生徒

今回の西日本豪雨災害で、私は人生初めての避難を経験しました。私が住む川地は、江の川が東西に流れています。今回、氾濫こそしなかったものの、江の川の支流や水路から水があふれ、浸水した場所が何か所もありました。

7月6日、午後4時。前日から降り続いた雨がより強さを増し、上流の土師ダムが放流を始めました。そして、江の川の水が増したため、近くの小学校に家族で避難をしました。最初避難所に来たときは、避難してきている人は少なかったのですが、時間が経つにつれ避難者が増え、水や食料が回って来なくなりました。

午後十時、母の携帯電話が突然鳴りました。祖父からでした。祖父の家が床上浸水したというのです。あっという間に玄関に水が入り、祖父は外に出られなくなってしまいました。その瞬間、一気に不安と恐怖が押し寄せてきました。「祖父は一体どうなってしまうのか。今、私たちのいるこの避難所は、本当に安全なのか。この雨はいつ止むのか。」誰も答えることのできない問いが頭をぐるぐると巡り、まともに寝られませんでした。

翌日、雨は弱まり、江の川の水位も下がり始め、いつもの川地の風景が戻りつつありました。しかし、テレビで見る三次の町は、私が知っている町ではありませんでした。馬洗川は土手ぎりぎりまで水かさが増しており、氾濫寸前、きりりホールは半分くらいまで浸かり、まるで湖に浮かぶ島のような状態でした。自然の力を前にしては、人は勝てず、無力なことを思い知らされました。

そして、祖父のことが心配になり、母と弟と祖父の家に向かいました。

庭には水が溜まり、玄関までたどりつくことができずでした。祖父は家の中で一人孤立していました。昼は浮き、二階に逃げようにも体を動かすのが辛く、結局ベッドの上で過ごしたそうです。身動きがとれないうえに、だんだん迫ってくる水。私だったら耐えられないその状況乗り越えた祖父は、なんと忍耐力があるのだろうと感じました。大雨が降る中、一人過ごした祖父を見つめながら、胸がしめつけられました。

そして、7月9日、あの真っ黒な空が嘘のように、西日本は梅雨明けしました。まだ被害の全体像がつかめていない、大雨の直後でした。

二日後、祖父の家の床の張り替えの手伝いに行きました。私は、掃除機をかけたり、張り替える板に印をつけたりしました。一日中暑く、やる気を削ぐような陽射しが祖父や母、私たちに降り注いでいました。

呉市や東広島市に比べれば、被害は少なかったものの、私たちも確かに被災したのだと気付かされました。今も続く避難所生活、水や食料などの物資を待つ日々、加えて災害レベルと言われるこの猛暑。一晩だけでも体にこたえたのに、いつまで続くかわからないという、行き場のない不安やストレスは、日々避難者の人々の心を蝕んでいっていると思います。さらに、親戚、知り合いの方などが死者・行方不明者に含まれているとなると、心が壊れてしまうのではないかと思います。

今回の災害で被害に遭われた方はたくさんいます。そんな方々の気持ちが少しだけわかることができた今、何か役に立ちたいと強く思います。今回の災害では、多くの高校生が泥やがれきの撤去作業をしています。私も、子どもだからと言わず、掃除・片付けなどの直接的な支援や募金、物資の供給などの間接的な支援など、何ができるのか考え、行動に移したいです。一人一人の力は小さくても少しでも支えになりたいと強く思っています。

広島県自然災害に関する防災教育の手引[別冊]

—平成 30 年 7 月豪雨災害を踏まえた実践事例・資料集—

平成 31 年 3 月

広島県教育委員会事務局

教育部 豊かな心育成課